

平成 29 年度 修業式式辞 (定時制)

○早いもので、今年度の登校も本日が最後となります。生徒会誌にも書きましたが、この1年は、皆さんの頑張りで素晴らしい1年となったと思います。3月2日には、先輩たちが立派に成長して卒業していきましたが、皆さんもあとに続いてください。

○今日は、一度はしなければと思っていた校訓「出藍」についてのお話をします。

○「出藍」出典は、中国の古典「荀子」です。人の名前でもあり、荀子が残した教えの本の書名でもあります。荀子は紀元前 300 年前後、三国志で有名な時代から 4～500 年前の時代に生きた人です。

○「荀子」は 20 巻、32 編からなる膨大な教えですが、その中の勸学篇、第 1 編に出てくるのが、今日の資料にある一節です。

君子曰く、學は以て已む可からず。青は之を藍より取りて、藍よりも青く、氷は水之を爲して、水よりも寒し、と。木直なること繩に中るも、輶めて以て輪と爲せば、其の曲なること規に中り、槁暴有りとも、復び挺せざるは、輶之をして然らしむるなり。

(以下、略)

「荀子(上)」新釈漢文大系(明治書院)より

○この中の、「青はこれを藍より取りて藍より青く」を出典とした格言が、「出藍」または「出藍の誉れ」といいます。

○藍草というのは、タデ科の緑色をした1年草です。こんな植物です(写真)。

3月に蒔いた藍を夏になって刈り取り、からからに干した後、今度は水を加えて発酵します。堆肥の作り方と同じです。これを「すくも」といいます。この過程で、藍に含まれていた無色の(インディカンという)物質が青い色素(インディゴ)に変わります。インディゴは水に溶けないので、次に、瓶の中に、すくも、小麦の糠(ふすま)、灰汁などをいれて、還元状態にして水溶性にして染色し、取り出して、空気に触れさせる(酸化する)と青に戻ります。このようにして染めたものがこれ、藍染めです。

元は緑色の草から青が取れることから、そこから生まれたものが、もとのものよりすぐれること、ひいては弟子が師を超えることを出藍という言葉で表します。

○ここで、先ほどの漢文の意味をあたってみます。

「学問は途中でやめてはならない。青い色は藍草からつくりだすが、もとの草(藍)の色より青い。氷は水からできるが水よりも冷たい。ピンと張った墨縄にぴったり合うまっす

ぐな木も、力を加えてたわめればコンパスで描く丸い車輪となり、乾燥してももとには戻らない。曲げるといふ外部からの力がそうさせたのだ。木は墨縄に当ててけずれば真直ぐになるし、金属は砥石で研げば鋭利になる。それと同じように、人も毎日反省を繰り返しながら学問に励めば、英知がまして、誤った行為をしなくなる」とあります。

外からの働きかけ＝教育によって人は変わる、つまり、学び努力することの大切さを説いた内容になります。

○ここには、先ほどの弟子が師を超えるとは、書かれておらず、「青はこれを藍より取りて藍より青し」というのは、学問をやめてはならない説明として使われています。先を読んでいくと、先人の残したものを学び、良い環境を選び、良い師につけとはいっていますが、荀子の言わんとするところは、人は学問を続けることでより優れた状態になっていく、ということだったのではないかと思います。

○本校の校訓は、師を超える出藍の意味ですが、学びによって自分を越える（優れたものとしていく）という荀子の言う意味も忘れてはならない大切な価値観だと思います。

○荀子の思想の立ち位置は、性悪説です。対象的な考え方は、孟子の性善説。二人とも孔子の教えを受け継いだ人たちです。一見、相反することを言っているように見えます。また、性悪説という、人を信用できないという考え方のようで、悪い印象を持たれがちだが、誤解からくるところもありそうです。

よく読むと二人のいう性や善悪は定義（説明しようとしている内容）が違うようです。

孟子は、人は生まれながらにして道徳性を備えておりその心こそ善だ、といったのであり（性＝生まれながらの心、善悪＝道徳的価値）、

荀子は、人は利益や快楽を求めようとしており、そのため社会秩序が乱れるのだといっているようです（性＝欲望、善悪＝社会的秩序）。

○二人とも、人は良くも悪くもなる可能性があり、学ぶこと（教育）によって、良くなるのだといっており、そこは同じなのです。興味のある人は、調べてみてください。

○さて、今日は校訓の話、そして荀子が学ぶことを大切に話をしてしました。

「学び」というのは、単に、「今まで知らなかったことを覚えること」ではありません。

私が考える「学び」とは、「何かを知って自分が変わる事」。「何かができるようになったり、行動につながる営み」が学びです。

○これから新学期までの長い期間、学校の教科の勉強に限りませんが、よい学びをして、より濃い青に染まってきてくれることを願って、修業式の話とします。